

令和元年度
(第14回)
松山市小学校
情報教育研修会

「共に創ろう！」これからの情報教育

— 子どもたちの「生きる力」を育てるために —

主催 松山市教育委員会 松山市小学校情報教育研究委員会
共催 愛媛大学教育学部 デジタル表現研究会 (D-project)

これまで学校教育では、児童の情報活用能力の向上や、各教科における ICT の活用などを通して、確かな学力を身に付けさせることが重視されてきました。文部科学省から発表された「教育の情報化ビジョン」でも、今後の情報教育推進の指針が示されています。また、昨年度から実践されてきている学習指導要領では、情報活用能力（情報モラルを含む）が学習の基盤となる資質・能力として位置付けられ、教科等を通じた横断的な視点で確実に育成することが明記されるとともに、主体的で対話的な深い学びへの質的な転換のために ICT を効果的に活用することが示されています。

さて、松山市内の小学校では、校務用パソコンや各教室への ICT 機器の整備が行われ、グループウェア「ミライム」の活用や校内のデータ共有も定着してきました。さらに、タブレットパソコンが全校に導入されるとともに、無線 LAN の環境も構築されてきており、活用についての実践研究が進んでいます。このように、松山市は、全国的に見ても非常に恵まれた ICT 環境が整っています。

このような状況の中、今後、ますます効果的に、そして安全に ICT を利活用し、主体的で対話的な深い学びを推進するために、「教育の情報化」を進めていくことが望まれます。

そこで、学習指導要領や「教育の情報化ビジョン」を具現化するために、本研修会を企画しました。情報活用能力の育成、ICT を利活用した教科指導のあり方、校務の情報化、プログラミング教育、対話的な学びの実践等について一緒に考えたり、情報教育の最先端で研究をされている方々に教えていただいたりする場を共有し、

これからの情報教育を、共に考え、共に創っていきましょう。

【日時】 2019年7月31日(水) 9:30~16:00 (9:00 受付開始)

【会場】 全体会 : 愛媛大学南加記念ホール

分科会 A : 松山市立湯築小学校 コンピュータ教室

分科会 B : 愛媛大学教育学部1号館 2階 201教室

分科会 C : 愛媛大学教育学部1号館 2階 202教室

分科会 D : 松山市立東雲小学校 コンピュータ室

分科会 E : 松山市立東雲小学校 図書室

分科会 F : 松山市教育研修センター 3階 ICT 研修室

9:00 9:30	9:40	11:50 13:30	16:00
受付	開会行事	全体会	分科会
	実践事例発表 9:40~10:30 講演 10:30~11:10 パネルディス 11:10~11:50 カッション	昼食・移動	A・B・C・D・E・F 6つの分科会に分かれて ワークショップ
			(各分科会場で) 閉会行事

全体会

●実践事例発表（9:40～10:30）

「豊かにかかわり合い、学びを深める子どもの育成～情報活用能力の育成を目指して～」

阿部 雄一 先生 坂本 知里 先生（松山市立道後小学校教諭）
「簡単にできるタブレット活用～大きなカメラとして～」 二宮 春奈 先生（松山市立和氣小学校教諭）
「NHK for school の活用事例」 石田 年保 先生（松山市立椿小学校教諭）

●講演（10:30～11:10）

「新学習指導要領における情報活用能力の育成」

中川 一史 先生（放送大学教授）

●パネルディスカッション（11:10～11:50）

「プログラミング教育パネルディスカッション」

コーディネーター 小林 祐紀 先生（茨城大学准教授）
パネリスト 岩崎 有朋 先生（鳥取県岩美町立岩美中学校教諭）
菊池 寛 先生（静岡県浜松市立雄踏小学校教諭）
山口 眞希 先生（情報教育サポーター）
坂本 成斗 先生（松山市立新玉小学校教諭）

分科会

A：「やってみよう！プログラミング教育～microbit を使って～」

プログラミング教育でロボットを動かす、それはどんな学力が付くのでしょうか。プログラミング教育を機器やサイトなどを用いることでどのようなことができるか、各教科とどのようにつなげられるのかを一緒に考えていきましょう。

講師：小林 祐紀（茨城大学准教授）

B：「理科の目標達成を目指したプログラミング教育」

「必修化されるプログラミング教育は、一体どのように進めたらいいのだろうか？」という、疑問や不安がたくさんあると思います。プログラミング教育を実際の理科の授業に位置付けることで、先進的な事例に学んだり、実際にセンサーを活用した体験をしたりして、プログラミング教育のねらいにせまっていきましょう。

講師：菊池 寛（静岡県浜松市立雄踏小学校教諭）

C：「体験と対話を通して学ぶ情報モラル教育」

情報社会をたくましく生き抜くために、情報モラルを養うことは喫緊の課題です。しかし、つい教師主導型の「べからず」指導に陥りがちです。主体的・対話的に学ぶ情報モラル教育をめざし、SNS 体験、教科内でできる表現活動、動画教材の視聴等を通して、これから必要な情報モラル教育について一緒に考えませんか。

講師：山口 眞希（情報教育サポーター） コメンテーター：中川 一史（放送大学教授）

D：「NHK for school×タブレット端末で2学期からの授業をバージョンアップ」

NHK for School のサイトには、使えるコンテンツ・便利な機能がたくさんあるのを知っていますか？この分科会では、NHK for School の様々な実践紹介や模擬授業を通して、便利な機能や授業デザインの肝を学んでいきます。「NHK for School×タブレット」で、2学期からの授業をバージョンアップさせましょう！

講師：岩崎 有朋（鳥取県岩美町立岩美中学校） 石田 年保（松山市立椿小学校教諭）

E：「情報活用能力の基盤づくり～記事の読解・要約・発信で見方・考え方を鍛える～」

新学習指導要領では情報活用能力が学習の基盤としての資質・能力の1つとして位置づけられました。「学びの宝庫」である新聞記事を使って、児童生徒の「読解力・要約力・批判力」を身につけ「発信する力」等の情報活用能力の育成をめざす授業づくりワークショップです。朝学習における継続的な学習や国語科及び総合的な学習の時間などでの活用等を工夫し、授業デザイン力を高めていきましょう。

講師：佐藤 幸江（元金沢星稷大学教授）

F：「特別支援教育×ICT～できることから始めよう！～」

ICT の活用は、子どもたちの困難を取り除いたり、減らしたりするなど、合理的配慮を進めるために大きな役割を果たすことができます。このWSをきっかけに、子どもたちの可能性を広げるためのICT活用を始めてみませんか？

講師：岸田 知絵（松山市立三津浜小学校教諭）

講師紹介

中川 一史 先生 (放送大学 教授)

<講演、分科会 C コメンテーター>

地上デジタルテレビ放送の教育活用促進事業デジタル放送教育活用促進協議会企画委員広報部会委員(文部科学省)、理科教材開発・活用支援事業推進委員会普及・促進分科会主査(科学技術振興機構)、D-project(デジタル表現研究会)会長など、日本の情報教育の第一人者として活躍されています。小学校教諭・教育委員会指導主事の経験もあり、最先端の情報教育の理論や指導方法を、具体的な事例をもとに分かりやすく話していただきます。松山市小学校情報教育研究委員会、授業支援外部顧問として、松山市の情報教育の推進を支援して下さっています。



佐藤 幸江 先生 (元金沢星稜大学 教授)

<分科会 E 講師>

D-project の副会長として、表現活動を通して、自分なりの発想や創造性、柔軟な思考を働かせながら自己を見つめ、切り拓いていく力「メディア創造力」を子どもたちに育成するために、様々なプロジェクトを立ち上げてご活躍されています。また、国語科の授業における効果的な ICT 活用方法についても、数多くの実践を考案されています。中でも、光村図書出版「国語デジタル教科書」を活用した実践は、様々な教育書で目にされています。

小林 祐紀 先生 (茨城大学 准教授)

<パネルディスカッションコーディネーター、分科会 A 講師>

平成 27 年度より茨城大学教育学部准教授。4 年前まで石川県金沢市内小学校で教鞭をとられています。タブレット端末やホワイトボードを活用した対話的な学びを通して、子どもたちの表現力や思考力、コミュニケーション能力などを高めることをねらいとした授業実践、研究を進めておられます。タブレット端末実践セミナーや D-project の研修会等で実践発表や模擬授業をするなど、多方面でご活躍されています。



菊地 寛 先生 (静岡県浜松市立雄踏小学校 教諭)

<全体会、パネルディスカッションパネリスト、分科会 B 講師>

静岡県公立小学校の教諭。現在は浜松市雄踏小学校で教鞭をとられています。浜松市教育研究会情報教育部副部長、部長をこれまで務めておられます。For school×タブレット端末活用研究会のメンバーであり、日本メディア学会・STEM 教育学会等で数々の研究を発表している新進気鋭の研究者です。大学と協力した情報教育関係各種プロジェクトに多数関わりご活躍されています。

岩崎 有朋 先生 (鳥取県岩美町立岩美中学校 教諭)

<パネルディスカッションパネリスト、分科会 D 講師>

鳥取県岩美町立岩美中学校教諭。担当教科は理科で、鳥取県教育委員会認定のエキスパート教員(認定分野:理科・ICT を活用した教育活動の 2 分野)に認定されています。教育の情報化フォーラムや D-project の研修会等で実践発表や模擬授業を多くされており、D-project 副会長を務められています。Intel Teach Master Teacher でもあります。



山口 眞希 先生 (放送大学大学院・情報教育サポーター)

<パネルディスカッションパネリスト、分科会 C 講師>

石川県公立小学校教員として 20 年勤務され、現在は情報教育サポーターとしてセミナーの企画運営や教員・学生への指導等、教育支援を行われています。放送大学大学院博士課程に在籍。金沢市プログラミング人材育成検討委員、NHK 教育番組委員、JAPET & CEC 情報活用能力の授業力育成事業委員等を務められ、全国で模擬授業やワークショップを行っておられます。



会場使用上の留意点

- 昼食は愛媛大学内の学食、周辺施設をご利用ください。
- 分科会 B・C (愛媛大学教育学部 1号館 201、202 教室) 会場のみ、持ち込んでの食事ができます。**東雲小学校、湯築小学校、松山市教育研修センターでの食事はできません。**
- 駐車場はありません。自転車か、公共交通機関でお越しください。
- 自転車は、愛媛大学、湯築小学校、東雲小学校の各駐輪場に停めることができます。

会場案内図

